

第 5 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会

会議名	第 5 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会
日時	平成 25 年 4 月 24 日 (水) 午後 2 時 00 分から午後 4 時 00 分
場所	生涯学習センター 2 階 一般研修室
出席者	<p>(委員)</p> <p>・森川 知史 委員長 ・門脇 洋子 委員長職務代理</p> <p>・奥西 隆三 委員 ・迫 きよみ 委員 ・向山 ひろ子 委員</p> <p>・弓指 義弘 委員 ・石田 光春 委員 ・坂田 耕作 委員</p> <p>・清水 桂子 委員 ・原 保彦 委員 ・六嶋 由美子 委員</p> <p>・小宮山 恭子 委員 ・桑原 千幸 委員</p>
	<p>(事務局)</p> <p>藤原 千鶴(教育部次長兼生涯学習課長兼生涯学習センター所長)</p> <p>山下一也(教育改革推進室長) 安達 昌子 (生涯学習課主幹)</p> <p>川瀬 章治(生涯学習課主幹) 西村 比口支(生涯学習課生涯 スポーツ係長)</p> <p>北池 顕子(生涯学習課事業係長兼生涯学習センター主査)</p> <p>前田 紘子(生涯学習課生涯学習係長)</p> <p>粕谷 祐次(生涯学習課主任) 西田 知世(生涯学習課主事)</p>
	<p>(傍聴者)</p> <p>なし</p>
<p>(事務局)</p> <p>前回の会議録について、修正があった。 会議録 5 ページ下から 11 行目 × 訂正前 : 「 競技者が増え、ソフトボール協会にその活動の... 」 訂正後 : 「 競技者が増え、バレーボール協会にその活動の... 」</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>・平成 25 年度宇治市教育委員会の体制について</p> <p>(事務局)</p> <p>宇治市教育委員会組織図について、青少年課及びその下の青少年係、また青少年指導センターが学校教育担当次長の直下から、教育改革推進室長の直下へと変更になった。また、教育改革推進室の小中一貫教育課の企画調整係は、宇治黄檗学園開校により 2 つの係が統合してできた係である。</p>	

第5期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会

・宇治市教育振興基本計画について

(事務局)

平成25年3月29日に第2回策定委員会を開催した。学校教育部門は『宇治市教育ルネッサンスプラン』と『宇治市青少年プラン』、生涯学習部門は『宇治市生涯学習推進プラン(宇治まなびAIUEOプラン)』に基づいて、それぞれ現況を報告した。

教育振興基本計画の策定にあたって、アンケート調査を実施している。アンケートは12種類あり児童、保護者、教職員、市民団体、一般市民など対象者別に別々のものを配布した。「市民」向けアンケートについては1,000人の市民を抽出して、平成25年3月7日から19日までの間に実施した。市民の回収率は37%にとどまったが、市民団体15団体については100%となった。12種類のアンケートには、1つだけ共通の質問(問17)を設けた。それぞれの層がどのように捉えているのか、できるだけ多くの人に調査をしたいと考えたためである。

第3回策定委員会は平成25年5月27日に開催する。生涯学習部門はまだ報告が完了していないものもあり、今後部門別に報告機会を設ける。

(2) 協議事項

・第5期宇治市生涯学習審議会 報告書について

(委員長)

公民館については、審議会終了後各委員にアンケートを取ったところ多くの意見があったため、事務局より再度説明を願いたい。

(事務局)

12月の視察で木幡公民館と東宇治コミュニティセンターを訪れたが、いずれもサークル活動の様子を見ていただいたため、公民館とコミュニティセンターの違いがわかりにくかった。もう一度社会教育施設としての公民館という認識を持ってもらえたらと考え、再度説明をするものである。

<事務局より本市公民館の取り組み状況について説明>

(委員長)

最近、生涯学習よりも社会教育の方に重点がシフトしていく方向性があり、その社会教育の場としての公民館の在り方についても議論が必要である。昨年の見学の際は公民館とコミュニティセンターの、いずれもサークル活動のみを見学したため、両者の境界がぼやけているのではないかと。今回の報告を受けて、生涯学習課のもとで運営されている5つの公民館が、実際にはいろいろな活動をしていることがわかった。

(委員)

事務局の説明を受けて、人材を育成するための講座がないと思った。サークル活動の運営方法など、団体が市民サークルから次のステップに進むための積極的な仕掛けがない。団体の成長を応援するような仕組みが必要で

第 5 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会

は。また、しめ縄を教えている教室の話が出たが、後継者がなく終わるといことは教室の間に継承ができていなかったのではないか。文化の伝承ができていれば、人から人へ技術が流れ、営みは継続する。そういう視点で事業ができていないと思った。

(委員長)

以前ボランティア団体を調査したことがあったが、同じような問題があった。熱心に活動する人がいても後継者がいない。運営しながら次の人材を育てていく、これは非常に難しいが重要な指摘だと思う。

(委員)

ここ数年の公民館利用者の年齢は高齢化しているのか若返っているのか事務局に聞きたい。

(事務局)

年齢ごとの区分の調査はない。公民館の事業に出席する人やサークル活動などの自主的な活動があり、運営側からすると偏りのないよう各層を対象にした事業をしている。ただサークル活動などは日中に活動できる人が対象になるので高齢者が多くなるという偏りはある。

確かに来館するのは高齢者か小学校低学年までの子どもが多い。中高生はダンス教室があるが、30、40代の利用は少ない。それを埋めるような取り組みも企画している。例えばエンディングノート講座にはその層が来る。全世代に来てもらいたいが、高齢者が多いのが実態である。

(委員)

私自身中央公民館で鳳凰大学、その後宇治公民館の鳳凰学級に出ている。150人ほど受講者がいるがここ10年顔ぶれが変わっていない。社会教育という面から新しいリーダーを育てることが必要だが、そういう人材が出てこない。特に宇治、中央公民館はあちこちから人が来ており、どこから来ている人かわからないためそういう人材を育てにくい。広野、小倉などの公民館は地域に根付いているので、話し合いをして今後の活動について議論できるのではないか。行政も市民もその面で勉強していく必要があると思う。

公民館祭りは毎年やっているが、実行側が高齢化して人集めが大変だとの声を聞いている。若返りが必要だが人材がないという。地域が自主的にやるのが一番いいのだが、それができなければ行政の介入の必要もあると思う。現実が高齢者が多くなっている。公民館を社会教育のひとつの拠点とするなら、その辺りを検討する必要があると思う。

(委員)

健康生きがい課のすこやかサポーター講座も公民館で行っている。出前講座だけでなくそういう取り組みを徐々に増やしてほしい。個人的には防災

第5期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会

教育もしてほしいと思う。公民館が地域の人が集まる場であるならば、緊急時の訓練を、年1回の防災訓練以上に系統的、組織的に学べるようにと思う。

(委員)

福祉の分野に関わっているが、既に出た意見のように高齢化が進んでいると感じる。PTAとの関わりに力を入れている地区もあり、新しい人材供給を求めているという。子どもの居場所づくりの事業について、PTAとの連携はあるのか。

(事務局)

PTAは学校での土曜日の居場所づくりに関わっている。公民館は、社会教育の実践を担う。北槇島小学校では土曜日に地域の方々が子どもの居場所づくり支援事業を開催している。

(委員)

PTAの保護者は若い人が多い。興味を持ってもらって「今年だけ」と言っている人が多いがその中で継続してやってくれる人がでてきてほしいとの希望を持っている。地元の小中学校と協力してくれればいいと思う。

(委員)

現在のPTAの人々と大先輩の方々の間にはギャップがあるが、その間をつなぐ人がいない。

(委員)

人材の話が出たが、22の小学区にひとつずつ学区福祉委員会があり、その上に学区福祉委員会連絡協議会がある。そこでは若い人が入ってこない状況を打開するため、学校との提供を積極的にしようという動きがある。空き教室を使う、PTA役員会に出て福祉委員をしてもらうお願いをするなど。どのサークルも後継者を探すのが困難である。多様化している社会にあって役員になってもらうことは大変である。菟道第二小学区ではその人の得意分野でのみサポーターとして入ってもらっている。それ以上を求めると、引き受ける人がいなくなる。

また公民館に来る人は固定化しており、個人的には5つしかないのが問題だと思う。19万以上の人口を5つでは支えられない。いろんなコミュニティがあり総合してやっていくことが必要。以前に見学した図書館、スポーツ施設、アクトパル宇治、学校そして公民館と、いろいろな施設を総合して様々な行事をしていくよう発想転換することが必要だと思う。

(委員長)

いろいろな種類の施設があるが横の連携がなかなか取れていないことが問題。いろいろな場へ呼びかけていこうという動きが必要。若い人は公民館にも図書館にも日中には行けない。行政サービス、公民館等の利用もそ

第5期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会

の時間内のみが普通である。時間を超えて対応できる工夫が必要かと思う。行政の限界かもしれない。市民が動き始めればよいがそこまでのきっかけづくりを行政に期待したい。公民館が社会教育の場で担うべきことがある。最近は大學生がいろいろなところで危険行為迷惑行為など問題をしてブログやツイッターで公開し、仲間内で目立ちたいという行動が目立つ。これは「公民意識」がなくなっているからだと思う。公民を育てるという教育の指針の問題である。公民館だけの課題ではないが、戦後の教育はこの点に不足があったのではないかと思う。具体的なことは皆さんで議論していただきたい。

(委員)

個人的に受けたい講座がある。子どもが小学校で使う宇治のことを学ぶ教科書を見た。宇治について知らないことがたくさんあり、興味を持って学ぶ機会となった。この教科書のような内容で親向けの講座があればと思う。社会に出ると講座の参加は難しくなるので、赤ちゃんがいる母親などを対象にするのはどうか。宇治の歴史や文化について、昔を知るなまの声を聞き、様々なことを学び、宇治が好きになり、子ども達にもその気持ちが引き継がれていけばいいと思った。

(委員長)

宇治学は今も学校でやっているのか。

(委員)

今の話に出ていたのは小学校3年生、4年生のもので社会の副教材「わたしたちの宇治市」である。宇治学は総合的な学習の時間で小中一貫教育の目玉としカリキュラムを作って進めている。

(委員)

十数年前に民生委員の子育て支援の一環で、赤ちゃんのいる母親向けの交流の場を開いたことがあった。小倉公民館は周りに茶畑があり、あるお茶屋さんで抹茶をたててもらったことがあり、来た人達が喜んでいて、それがきっかけで茶畑を通る度にお茶のことが気になり質問する人が増え、それに対し種類の説明などがあり、学びの場になった。

(委員)

公民館に来ている人でそういうことに詳しい人がいるかもしれない。地域のお母さん達を始め、伝承していったらいい。

(委員)

うちは公民館からは遠いが、公民館は近い人々が利用するのだと思う。私は地域福祉センターや集会所が近いので利用するが、いずれも貸し館をしている。公民館も遠方へ出張していったら地域の人にも学べる機会が増えると思う。

第5期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会

(委員長)

時々でもそういう取り組みをしていったらより多くの人を呼び込めるかもしれない。

(委員)

今回は様々な施設を見学して回り、その位置付けや取り組み状況などがよくわかった。6月からこの審議会の新年度が始まるが、今後はより積極的に外に出て行くことをと提案したい。市民との対話、施設の見学などする。全員が難しいなら3つぐらいのグループにわけて順番に行くなどしてはどうか。

(委員長)

公民館が出張していくという話があったが、我々も審議をオープンにして外に出ていくというのは良いかもしれない。事務局の負担はあるだろうが検討してはどうか。

(委員)

今期はいろいろなところに行ったが、今後は5つの公民館を順番に回るなどどうだろうか。

(委員)

それも必要だと思う。現状把握をするのも我々の役割だ。

(委員)

一般に公民館は近隣の人が利用する傾向があるのではないかと。電車に乗らなければ行けない人もいる。どの地域がどの公民館を使うのかは微妙なラインであり実際どの館も利用しにくい立地に住む人も多い。

(委員)

中央公民館の事業の中で、「手作りの劇を学ぶ」というのがあるが、人形劇フェスティバルが毎年行われている。いま私は語り活動をしているがその原点であり、30年近く続いている。出演時の感動は忘れない。いろいろな団体が出ているのではなく固定の二、三の団体の公演にとどまっている。公民館側でもその打開に向けて取り組んでいるが続いていない。反省を踏まえて今後どうなっていくか注目したい。30年も続いている割には人形劇を小さい時に見て後継者となる人が少ないように思え残念である。

(委員)

私も伴奏で参加していたが、あれは演出者と観客の間が開いていて、市民活動の発表の場ではないと感じた。何のためにするのか、というポリシーを持ったコーディネーターが必要だろう。

第 5 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会

(委員)

私の学習活動のきっかけになったのは 35、6 年前にもなるが公民館の 16 ミリ映写機の技師免許の講座を受けたことだった。5、6 回の講座を受けて資格を取らないと公民館の映写機を動かせなかった。私はその時同時に映画同好会のスタッフもやっていた。

(委員)

いろんな人のやる気を引き出す方法があればいい。だがいざやろうという時に空きがないと実践する場がない。新しい人が来たときの空きがどの公民館にもないのでは。貸し館も 7 割程度にしておき 3 割は空けておいて新しい人が来たときに受け入れられるようにしたらいい。

(委員)

いたれりつくせりは良くないのでは。少しはハングリー精神がないと頑張ろうという気が起きない。

(委員長)

私の出身小学校では同窓会が盛んだが、会長を 10 年続けた人がいた。さすがにこのままでは良くないと、若い人に引き継いだら、ある世代の人々は非常に熱心に活動を始めたように思う。立ち上げる時は新しいものを作るためやりやすいが、あとの者がやりにくくなるということがある。世代の差もあるだろうが、そういうことが至る所で起こっているのではないか。次の世代にどうきっかけを与えるかを考えないといけない。

(委員)

私の所属している団体では結成より 20 年経つが、メンバーが固まってしまい、他の人が入りにくくなっている。また、今の若い人は考え方が違っている。人生の転換点に変わらないといけないという思いがない。自分には関係ないという感覚、そういう教育を受けている。

(委員)

年に 2 回クリーン運動をして、その後に鍋をしている。母親側は毎年違う人が来る。その都度ごぼうのささがきができないから教える。にんじんの切り方、お餅のつき方など知らない人が多く、やり方を教えている。毎年催しているが参加した母親達が次回から食べる側で来て、依頼すると手伝ってくれる。覚えたことを新しい人に教え、楽しそうにしている。

(委員)

若い人材を育てるため、青少年健全育成協議会でキャンプをしている。OBも来て前日から準備をしている。以前参加した子ども達が大きくなって手伝いに来る。PC など機器担当をしてくれるので、若い人と協力するいい例だと思う。学区で居場所づくりを月に 1 回行っているが遊びの場ではない。あいさつやマナーも教えている。餅の丸め方なども教えるとその母親

第5期宇治市生涯学習審議会 第12回審議会

も教えてほしいとなり、だんだんできるようになっていく。昔は当たり前だった竹馬や水鉄砲などの遊びや工作をしてこなかった世代、つまり今の子ども和父母世代にもいろいろなことを教えていく必要があると思う。

(委員)

今の20～30代はしてもらうのが当たり前なのかもしれない。活動のきっかけとなるものがたくさんあるのはいいと思うが、公民館のサークル立ち上げ方法などを教えればやってみたいという人が出てくるかもしれない。バイタリティのある人がいるのが一番いいが、今の人には難しい。機会があれば、やろうという人が出てくるのではないか。

(委員長)

我々の世代は、あまり詳細に言われると怒ったものだが、今の世代というのは、ある意味で素直で、何も知らない一方でやれと言ったらやる。火の付け方が違うようだ。手取り足取りの方がいいということ。

(委員)

マニュアルがあればやる。言われればやる。

(委員)

逆に言ったことしかしない。ボランティア等で来てくれる学生も、言ったことしかしない人が多い。こっちはすべてを教える暇がないので困る。10年も会長をしていた、という話が先ほど出たが、今はPTA役員など単年度限りだからする人が多い。ずっと学校の役をするという人が今はいない。当たったら今年一年仕方ないからやろう、面白かったら後もやってみようかなというレベル。子どもに料理の仕方もあえて教えないという世代があったので、その成長した子ども達の世代にやる気を起こさせるのは相当難しい。責任のあることはしたくない、言われていないことはしない、という世代。関心のない人に関心を持たせるのは難しい。例えばPTA会長等の任期は5年程度にして若い人につないでいく仕組みを作るなど、その中でやる気の出る人が出てくるかもしれない。

宇治も山を切り崩して開拓し、高層マンションが建ったところもあるが公民館へのアクセスが不便になっている。どの公民館に行くにも遠いという人がいて、そういう開発地域に人口が集中している。出前講座や公民館側からの働きかけがないと一生公民館と関わらない人がいると思う。本日出たような意見を総合してうまく出前などをやっていけばなんとかならないのかと思う。

(委員長)

大変なことだと思う。リーダーをやらなくなって、社会が無責任になっていくと、今後の社会全体の運営にも支障をきたしてくるので本気になって考えないといけない。事務局は本日の公民館の議論も報告書に入れるのか。

第 5 期宇治市生涯学習審議会 第 12 回審議会

(事務局)

体裁の話をする、施設ごとに 3~4 ページを割いている。公民館のところにはもともとページ数が多いが今日聞いた話を加えるとさらに多くなる。今日たくさんの意見が出た分を、集約していきたいと思う。

(委員長)

バランスは取ってもらえれば良いが、公民館の議論は大事な部分なので多くなっても構わないと思う。

(事務局)

委員長に「はじめに」を書いてもらったが「おわりに」は事務局で作った。公民館の話は社会教育全体につながる話が出てきたので、今日聞いた話をこの「おわりに」などで反映できればと思う。

(委員)

16 ページで前も言ったが、「...その割に駐車場が小さく...」とあるが、他のコミュニティセンターに比べると建物の 1 階の駐車場のほかに万福寺の駐車場を借りているのでほかに比べると恵まれているのでこの書き方を変えてほしい。手前の道路も他のコミュニティセンターよりは余裕がある。

(事務局)

今日の議論を踏まえた最終稿は各委員に諮って完成する予定である。教育長への報告は 5 月 27 日の予定である。

(3) その他

全国社会教育大会三重大会：平成 25 年 10 月 23~25 日

京都府社会教育委員連絡協議会総会：平成 25 年 6 月 13 日

山城地方社会教育委員連絡協議会総会：平成 25 年 6 月 21 日

(委員長)

これで第 5 期宇治市生涯学習審議会は最終となる。

(委員)

最後に、今期の公民館という身近なテーマや、各施設の視察など、社会教育施設について学ぶいい機会になった。これが教育の現場で生かされることを切に願う。